



輝かしい新年を迎え、謹んで初春のお喜びを申し上げます。旧年中は、格別のお引き立てを賜り誠にありがとうございました。

さて、昨年は、記録的な猛暑や台風による災害の多い一年だったと記憶しています。

弊社の十大トピックスは、

一月

高橋雅之さんがフロントとして入社

四月

大神滉次君が整備スタッフとして入社

五月

山端絵理さんが産休育休を経て職場復帰

八月

整備スタッフ住友健志君が結婚

九月

中村祥志君が整備スタッフとして入社

十月

弊社会長が傘寿を迎える

宇山和雄君、自動車検査員資格に合格

近藤諒一君が整備スタッフとして入社

十二月

岡本直人君が中型自動車免許を取得する

川真田さんが年金を満額貰える年に到達

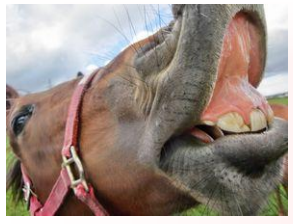
嬉しいことが多くあった一年でした。

お陰様で今年は、お客様にご愛顧いただき、55周年を迎えます、なお一層努力して参ります。本年も倍旧のご愛顧のほどとえにお願い申し上げます

二〇一四年の干支は「午」、皆様にも私たちに、全てがウマく運び一年でありますように。



開運！ ノーザンホースパークで笑う馬と会いました！



昨年九月と十月に、会議で北海道へ行く機会があり、待ち時間に、千歳空港から10分程度の小牧市にある、「人と馬と自然」をキャッチフレーズにした馬と触れ合う事が出来る体験型パーク、ノーザンホースパークへ行ってきました。左の写真は、パーク入り口の牧場で「おめえさん、遠いところからようきたな」と爆笑しながら出迎えてくれたお馬さん。

ノーザンホースパークでは、元競走馬や、ばんえい競馬でお馴染みのばん系馬、ポニーたちが、ポニーショーや、乗馬、記念撮影やアトラクションなどで楽しませてくれます。

またディープリンパクト他、多数の競走馬を輩出したスタリオンステーションとしても有名で、見学もできるそうです。しかし、滅多に見えない馬の笑い顔、四国から来たおばさんが、よほどおかしかったのかもしれない。馬に見習って、「一陽来復」にもじって「爆笑来復」な一年で！



ウマイ話にご用心！



2013年も、未公開株や高利回りをうたったファンドへの投資で、儲け話に見せかけた詐欺も後が絶たず、また「還付金詐欺」なる詐欺も出現し、しかもだんだん金額が大きくなっていて、ニュースを観る度に「みんな、たくさんお金持ってるのね」と、違う世界での出来事のように思います。今後も、エコロジーや環境、エネルギーに関わる詐欺がますます多くなるとか。立派なパンフレットを作ってくるので、知らんところからの案内は、疑心暗鬼な目で見ていて丁度良いかもしれません。「預金なし、証券もなし、被害なし」・・・なにもなければ当然被害もありませんが、たくさんお持ちでいらっしゃる方は「ウマイ話にくれぐれもご用心」をお願いします。

なつちゃんのおススメ映画



邦題「黒馬物語」

馬が出演している映画はたくさんあって、邦画ではダイナミックに馬を使っている「ラストサムライ」や武田信玄を描いた「影武者」、洋画では、優雅で繊細に使っている「モンタナの風に吹かれて」や、「ブラックビューティー」は大好きな作品。中でも、一頭の馬の一生を描いた「ブラックビューティー」は、名付けて「馬版・おしん」として見逃せない作品です。

ストーリーは、主人公の美しい黒毛のブラックビューティーがイギリスの牧場で生まれてから、田舎の牧場で静かに余生を過ごすまでの自叙伝的な物語。

裕福な家庭に生まれ育ち、一家がその場所を離れることになったので売りに出され、その後は、馬車馬や荷馬車などのお役を務め、最後は重労働による過労で倒れてしまい、お役御免で市に出されてしまいます。

出会う人や環境によって人生を大きく左右されるのは人も馬も一緒、馬から見た社会が良く分かる、オスメの一作です。



お馬さんのマーク・富の象徴・フェラーリ



車のメーカーで、お馬さんのシンボルマークと言えばイタリアのスーパーカーメーカー「フェラーリ」。2013年のジュネーブショーでは、フェラーリ初の市販ハイブリッドカー「ラ・フェラーリ」がワールドプレミアされ、499台限定車で発売され、価格はな、な、なんと1億6000万円！ 注文が殺到しているそうです。

しかし、1億6000万円持っているからと言って、誰にでも売ってくれるわけではなく、すでに5台を所有している方だけに購入の権利があるのだとか！！したがって、宝くじに当たったからと言って、正規ルートからの購入は不可能、さすがは富の象徴。

一方、フェラーリのイメージが貴公子なのに対し、マスマッチョなアラブ系の富裕層のイメージのバッファローがシンボルのランボルギーニから、2013年に発表された「ヴェネーノ」は世界3台限定で3、7億円！！富の象徴の富さ加減は大多数の普通の人々には、想像する事さえ困難です。



動物と植物と言つと思ひ浮かぶのは花札、鹿には紅葉。日本では肉の呼び方を、イノシシの肉を「牡丹(ボタン)」、シカの肉を「紅葉(モミジ)、ウマの肉を「桜(サクラ)」と言ひ、語源の由来は、江戸時代には、仏教の影響で折衝に厳しく獣肉を食べることが禁じられていたため、そのまま呼ぶことを憚られたため植物系の名前が付けられたという説が有力です。

馬肉が「桜肉」と呼ばれるのは、肉を力ツトして空気に触れると綺麗な桜色になるといふ説と、冬の間は干し草や穀類をたくさん食べ脂がのった桜の咲く頃が一番おいしいという説があるそうです。感謝しながら頂きたいですね。

日本の肉食文化
ウマは桜肉？！



えとぼん

毎年「干支パン」シリーズを展開している横浜の「ボンパドル」というパン屋さんの今年の「えとぼん」だそうです！前髪がかわいいですね！



～競馬、忘れられぬ感動秘話～

大好きな競馬は、ギャンブルとしてだけではなく、人馬一体の数々の物語が時代時代で綴られてきました。古くは1964年にデビューした日本ダービー勝利場キーストン、阪神大賞のレース中に左前脚を脱臼し転倒。地面に放りだされ意識を失っていた山本騎手のそばに、皮膚だけで繋がっている左前脚が宙ぶらりんの状態のまま、まさかの3本脚でもどり、山本騎手の安否を気遣うようにしながら鼻を顔に摺り寄せていたのだとか。観客一同が「もう歩かなくていい」と叫んだ忘れられないワンシーンだったそうです。

近年では、1997年にデビューした、とてつもない大逃げでファンを魅了したサイレンススズカと、天才・武豊の物語。サイレンススズカはいつもの通りハイペースで大逃げ、第三コーナーで骨折を発生、折れた脚で、バランスを崩しながらも踏ん張って体制を持ち直し、武豊の落馬を防いだそうです。故障後、安楽死の措置が取られ、武豊は「スズカが守ってくれた」と話したそうです。「信頼する相手を命がけて守る」馬に見習いたい感動秘話です。

